

伊賀者貝野九左衛門の

情報網

寛政4（1792）年、江戸幕府は全国の諸藩に対し、藩内の武芸流派、および武芸に秀でた藩士の氏名を報告せよと命じました。当時の江戸幕府の老中首座（老中の筆頭）は松平定信。「世の中に蚊ほどうるさきものは無し、ぶんぶといふて夜も寝られず」と皮肉られるほどに学問や武芸を奨励したことで知られています。諸藩に対する武芸の調査命令もそうした奨励の一環でしょう。

幕命が伊賀に届いたのは同年11月末のことです。伊賀の藩庁は各武芸流派の師範に、流派の来歴や優れた門弟の氏名の報告を命じました。翌年4月ごろ、これらの報告は藩を通じて幕府に提出されたようです。

この時の調査では、剣術や槍術などとともに忍術もその対象となりました。たとえば伊賀郡才良村の伊賀者貝野九左衛門は、自家に伝わる忍術の来歴を「伊賀忍流儀伝来由緒」という一冊の報告書に仕立て、藩庁に提出しています。残念ながらその原本は失われましたが、写本が貝野家旧蔵資料のなかにあります。貝野家は元和2（1616）年から藤堂家に仕えた伊賀者の家です。同家に所蔵されていた古文書などは、令和

2年（2020）11月、貝野九左衛門の末裔の方から市が寄贈を受けました。

さて、「伊賀忍流儀伝来由緒」は貝野家に伝わる忍術の来歴に関する記述から始まりますが、後半部分は少し変わった内容になっています。藤堂家以外に仕えている伊賀者などの情報も記されているのです。著者の九左衛門は、彦根藩に仕える伊賀者は20人であるとし、そのうち13人の氏名を挙げています。さらに、流儀は不明としつつも、23藩の「忍びの者」の氏名を書き上げ、その内の一人については、部下20人を諸国に派遣していると注記しています。「要注意人物」といったところでしょうか。

伊賀者貝野九左衛門が独自の情報網を持っていたことを示唆する資料といえるでしょう。

文化財課歴史資料係  
☎ 52・4380 FAX 52・4381



▶伊賀忍流儀伝来由緒

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

オンラインゲームと子どもたち -伊賀支所振興課-

コロナ禍で外に出ることが少なくなり、新しい生活様式としてリモートワークやオンライン会議など、インターネットを使った新しい環境づくりが進められています。

今、子どもたちの間でも、家庭用ゲーム機やスマートフォンを使ってインターネットにアクセスするオンラインゲームが流行しています。多くの子どもたちはオンラインゲームを通じて、国や地域を越えたさまざまな人と交流しながら会話ややりとりを楽しんでいるようです。

しかし、大人からすると、子どもがインターネットの世界で何をしているのか非常に分かりにくく、指導が難しいという一面もあります。

学校関係者からは、子どもが「夜遅くまでオンラインゲームで遊んでいて、日中寝不足になっている」、「オンラインゲームに熱中しすぎて暴言を吐く

ようになり、その言葉を学校で使ってしまう」、「ゲームを効率的に進めようと思うあまり、課金の落とし穴にはまってしまう」、「知らない大人とつながってしまう」などの声を聞きます。

私たちは、今こそ「顔が見える関係性」の中で子どもたちと向き合い、話し合っていくべきなのではないでしょうか。

子どもと関わる多くの学校関係者、保護者の皆さんには「夜は早く寝る」、「暴言を吐かない」、「課金に気を付ける」、「インターネットの世界で知らない人とつながるときには、個人情報伝えることは絶対にしない」ということを子どもたちの顔を見て、しっかりと伝えていただきたいと思います。私も地域の一員として、インターネットの適切な利用法を子どもたちと共に学びながら、伊賀市の未来を担う子どもたちの育ちと学びを支えていきたいです。



## 芭蕉翁記念館だより

梅雨の時期は、現代の暦では6月、旧暦では5月にあたります。そのため「梅雨」は「五月雨」とも呼ばれています。

五月雨に鶴の足みじかくなれり

芭蕉さんは30歳代後半に江戸日本橋から隅田川のほとりの深川に移住します。この句は移住して間もない頃に詠まれました。

降り続く五月雨で沢などの水かさが増したことで、水中に立っている鶴の長い足が思いがけず短くなってしまった、というのです。五・五・七の破調（五・七・五の定型を破った）の句で、五月雨の様子をユーモラスに捉えています。

### ◆企画展「芭蕉さんがいっぱい」開催中

6月27日(日)まで

ギャラリートーク

6月20日(日) 午後1時30分～

### 【問い合わせ】

○文化交流課 ☎ 22-9621 FAX 22-9619

○芭蕉翁記念館 ☎ 21-2219

## 忍者線（伊賀線）だより



### さつき晴れに沿線レトロを訪ねる

桑町駅は、梅雨の合間の気持ちよく晴れた日におすすめしたい、魅力の沿線スポットです。レトロで素朴な駅舎の後ろに広がる空を目にすると、何とも言えない懐かしさがこみあげてきます。

伊賀線沿線には、大切なふるさとの光景を形づくる建造物として、令和3年2月4日に国登録有形文化財に登録され



た上野市駅舎・桑町跨線橋・小田拱橋・小田第二暗渠もあります。ぜひ、伊賀鉄道に乗ってこれらのスポットを訪ねてみてください。

### 【問い合わせ】

交通政策課 ☎ 22-9663 FAX 22-9694

## 情報交流ひろば

# となりまち いが・こうか・かめやま

## 甲賀市

### 甲賀市×忍者じゃじゃ丸くん ～ゲームの中に甲賀市が登場～

忍者ゲームを制作する株式会社コネクションと甲賀市が連携協定を結びました。同社は昭和60年代に家庭用ゲームソフトで「忍者



じゃじゃ丸くん」を生み出し大ヒットしました。

今後販売する同ゲームソフトに甲賀市の名所や名物を登場させようと開発中です。

今後の「じゃじゃ丸くん」にご期待ください。

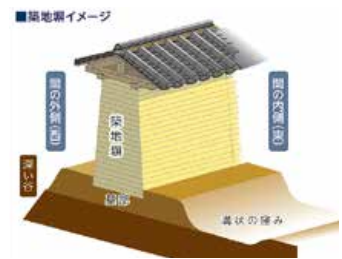


【問い合わせ】 秘書広報課 ☎ 0748-69-2101

## 亀山市

### すずかのせきあと 鈴鹿関跡 国史跡に！ ～関町の名前の由来となった遺跡～

鈴鹿関は、奈良時代に不破関（岐阜県）、愛発関（福井県）とともに律令三関と呼ばれ、古代国家にとって最も重要とされた交通管理施設です。発見された築地塀跡の歴史的な価値が認められ、令和3年3月26日に国史跡に指定されました。



詳しい情報や発掘調査現場の様子を動画で紹介していますので、ぜひご覧ください。

### 【問い合わせ】

亀山市文化スポーツ課まちなみ文化財グループ ☎ 0595-96-1218

